

(件名)

令和4年度総合特区評価書（案）の概要

(知事直轄組織総合政策課)

1 概要

「ふじのくに防災減災・地域成長モデル総合特区」は、原則として1年ごとに自ら評価を行い、内閣府の総合特区評価・調査検討会において評価を受けることとなっている。評価書は前年度の検討会における専門家所見を踏まえ作成した。

2 評価方法及び令和3年度の評価結果

提出した評価書は、内閣府の検討会において専門家が採点・評価を行い、その結果は内閣府HPで公表される。

評価項目	評価方法	R3 評価
I 目標に向けた取組の進捗	・評価指標実績(4.8) ・有識者採点(5.0)	4.9
II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	・有識者採点	4.6
III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	・有識者採点	4.7
総合評価	(I + II + III × 2) / 4	4.7

専門家所見

- ・依然としてコロナ禍も続き、社会・経済への影響もある中で、本特区では県内全域での各種取組を進めている点が大いに評価できる。
- ・工業団地の誘致だけでなく、防災・減災に関する取組に協力する企業もあるなど、本事業の目的に対応した実践が見られている。
- ・6次産業化等の新規取組件数が堅調に増加しているが、各取組のその後の状況なども追跡調査など実施されたい。そうすることで、新規事業に関する示唆が得られることや、事業実現後の支援などにもつながると思われる。
- ・社会経済状況の激変、新型コロナウイルスの影響、激甚災害の増加といった厳しい状況の中、防災・減災分野での取組が進捗していることに加えて、新たなニーズを踏まえた産業誘致やライフスタイル創出を施策に活かしている点が高く評価できる。
- ・特区の取組で新規開発や新規産業誘致が進む一方で、縮小が必要となる市街地での持続可能なまちづくりについての創意工夫が求められる。
- ・基本的に県は真摯に取り組み、着実に施策が進展していると判断する。

3 令和4年度総合特区評価書（案）の概要

(1) 評価指標実績 (R3 評価書では4.8) ←

評価指標	数値目標	目標(R4)	実績(R4)	進捗度	寄与度	進捗度	評価	評点
防災・減災機能の充実・強化	地震・津波アクションプラン2013において目標を達成したアクションの割合	100%	77%	77%	50%	89%	4	4.5
	“ふじのくに森の防潮堤づくり”の整備延長	23,589m	24,209m	103%	25%			
	津波の要避難地区で避難が必要になる人に対する津波避難場所の充足率	100%	98.1%	98%	25%			
地域資源を活用した新しい産業の創出・集積	企業立地件数	累計325件	累計300件	92%	33%	114%	5	4.5
	新成長分野の取組件数	累計550件	累計735件	134%	33%			
	6次産業化等の新規取組件数	累計800件	累計936件	117%	33%			
新しいライフスタイルの実現の場の創出	豊かな暮らし空間創生住宅地区画数	累計450区画(H26-R4)	累計350区画(H26-R4)	80%	33%	103%	5	4.5
	移住相談窓口等を利用した県外からの移住者数	累計6,950人	累計8,474人	122%	33%			
	県内の太陽光発電の導入量	220万KW	238万KW	108%	33%			
暮らしを支える基盤の整備	高規格幹線道路へのアクセス道路の供用率	84.7%	71.4%	84%	50%	98%	4	4.5
	国及び県の助成制度等を利用して建設された物流施設件数	累計70件	累計78件	111%	50%			

注1 進捗度は実績÷目標。

注2 評価は5＝進捗度100%以上、4＝80%以上～100%未満、3＝60%以上～80%未満、
2＝40%以上～60%未満、1＝40%未満

注3 各評価指標の評点は、評価×寄与度の和（小数点以下は四捨五入）

（2）取組の実施状況及び総合評価

別紙「令和4年度ふじのくに防災減災・地域成長モデル総合特区評価書（案）」
のとおり